

No.1-3, 5号機

建築工事関係

- 昇降路の築造工事及び各階出入口、インジケータ、押ボタン等の穴あけ工事 (昇降路壁は5cm² 辺り300Nの外力が作用した時に15mmを超える変形及び塑性変形が生じない構造とする)
- 鉄骨構造階のファスナー、立柱及び中間ビーム (必要の場合) 並びにシキイ受材の設置工事
- 鉄骨構造階の三方枠、インジケータ、押ボタン、ハンガークース等の取付用鋼材設置工事
- 各階乗場出入口枠周囲のモルタル詰め工事
- 乗場機器取付後の出入口廻りの壁及び床の仕上工事
- 昇降路頂部にエレベーター機器搬重用のフック又はビームの設置工事 (3kN) /台
- 通過階がある場合の非常口設置工事
- ビット内防水仕上工事
- ビット床下部使用の場合の建築対策工事
- ビットが深い場合の埋め戻し工事
- その他建築に関する工事

設備工事関係

- 動力用電源・照明電源・接地線の受電端子迄の引込工事 (繋ぎ込み工事含む)
- インターホン取付位置より昇降路までの配管配線工事 (0.9φ x 10本) /台
- 火報信号の昇降路より外部の配管配線工事
- 遮煙ドアご採用の場合、遮煙ドア設置階乗降ロビーに火災感知器または、煙感知器の設置工事
- エレベーターの遠隔管理用配管・配線工事 (昇降路内から最寄の電話中継盤まで)
- ビット内点検用コンセント設置工事 (照明用AC100Vとは別系統のこと)
- 昇降路頂部の煙感知器設置工事 (外部より点検可能なこと) 平成20年国土交通省告示第1454号第一号により点検口の戸は錠付 (工具を必要とするネジでも可) とし戸が開いた時にはエレベーターを停止させる必要がある
- かご内TVカメラ用配管配線工事 (昇降路からモニター設置場所まで) EM-5C-FB同軸ケーブル
- 放送用配管配線の昇降路制御盤までの引込工事 (非常放送がある場合3線式とすること)
- 昇降路の換気設備工事 (平成12年建設省告示第1413号第一号第三号二により昇降路内温度を40℃以下に保つ必要があります) 発熱量 エレベーター駆動部 (6900W/3台) : 1-3号機 (2300W/1台) : 5号機

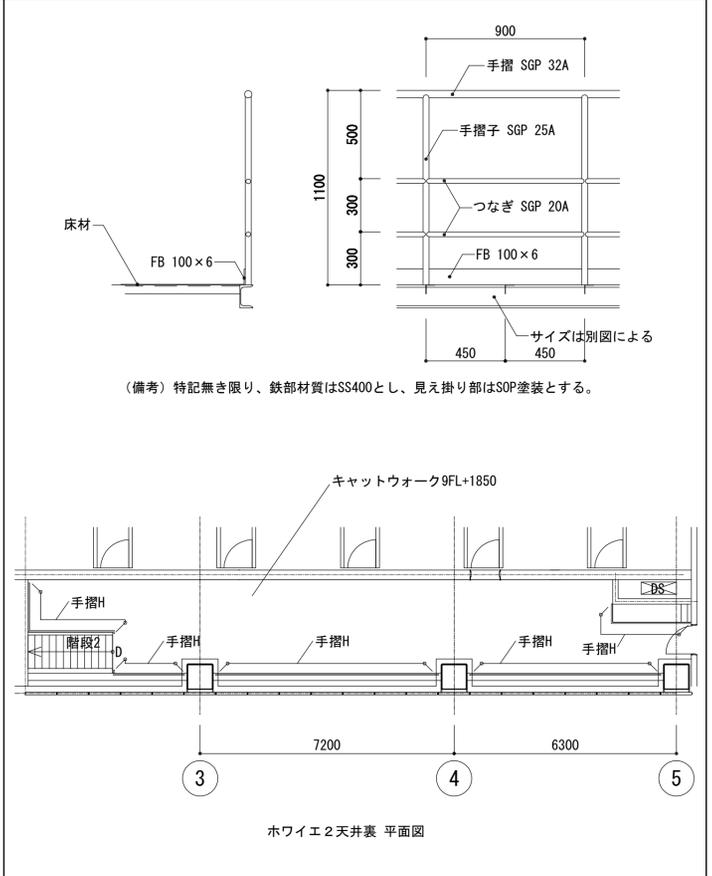
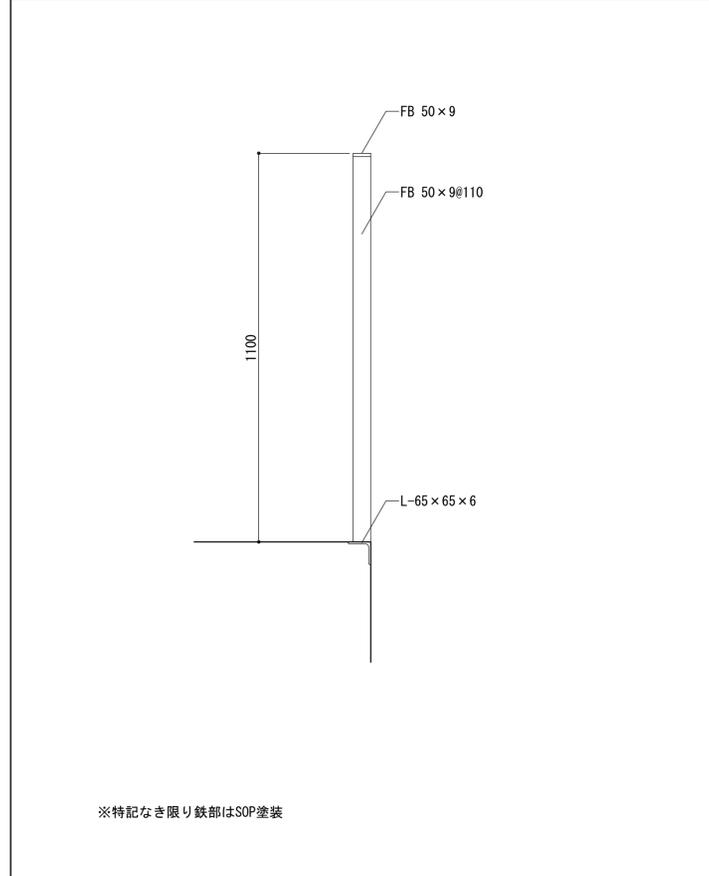
No.4号機

建築工事関係

- 昇降路の築造工事及び各階出入口、インジケータ、押ボタン等の穴あけ工事 (昇降路壁は5cm² 辺り300Nの外力が作用した時に15mmを超える変形及び塑性変形が生じない構造とする)
- 鉄骨構造階のファスナー、立柱及び中間ビーム (必要の場合) 並びにシキイ受材の設置工事
- 鉄骨構造階の三方枠、インジケータ、押ボタン、ハンガークース等の取付用鋼材設置工事
- 各階乗場出入口枠周囲のモルタル詰め工事
- 乗場機器取付後の出入口廻りの壁及び床の仕上工事
- 昇降路頂部にエレベーター機器搬重用のフック又はビームの設置工事 (4kN) /台
- 通過階がある場合の非常口設置工事
- ビット内防水仕上工事
- ビット床下部使用の場合の建築対策工事
- ビットが深い場合の埋め戻し工事
- その他建築に関する工事

設備工事関係

- 動力用電源・照明電源・接地線の受電端子迄の引込工事 (繋ぎ込み工事含む)
- インターホン取付位置より昇降路までの配管配線工事 (0.9φ x 10本) /台
- 火報信号の昇降路より外部の配管配線工事
- 遮煙ドアご採用の場合、遮煙ドア設置階乗降ロビーに火災感知器または、煙感知器の設置工事
- エレベーターの遠隔管理用配管・配線工事 (昇降路内から最寄の電話中継盤まで)
- ビット内点検用コンセント設置工事 (照明用AC100Vとは別系統のこと)
- 昇降路頂部の煙感知器設置工事 (外部より点検可能なこと) 平成20年国土交通省告示第1454号第一号により点検口の戸は錠付 (工具を必要とするネジでも可) とし戸が開いた時にはエレベーターを停止させる必要がある
- かご内TVカメラがある場合、かご内TVカメラ用配管配線工事 (昇降路からモニター設置場所まで) ・5C-2V同軸ケーブル
- かご室スピーカーがある場合、放送用配管配線の昇降路制御盤までの引込工事 (非常放送がある場合3線式とすること)
- 昇降路の換気設備工事 (平成12年建設省告示第1413号第一号第三号二により昇降路内温度を40℃以下に保つ必要があります) 発熱量 エレベーター駆動部 (3770W/1台)



注意事項

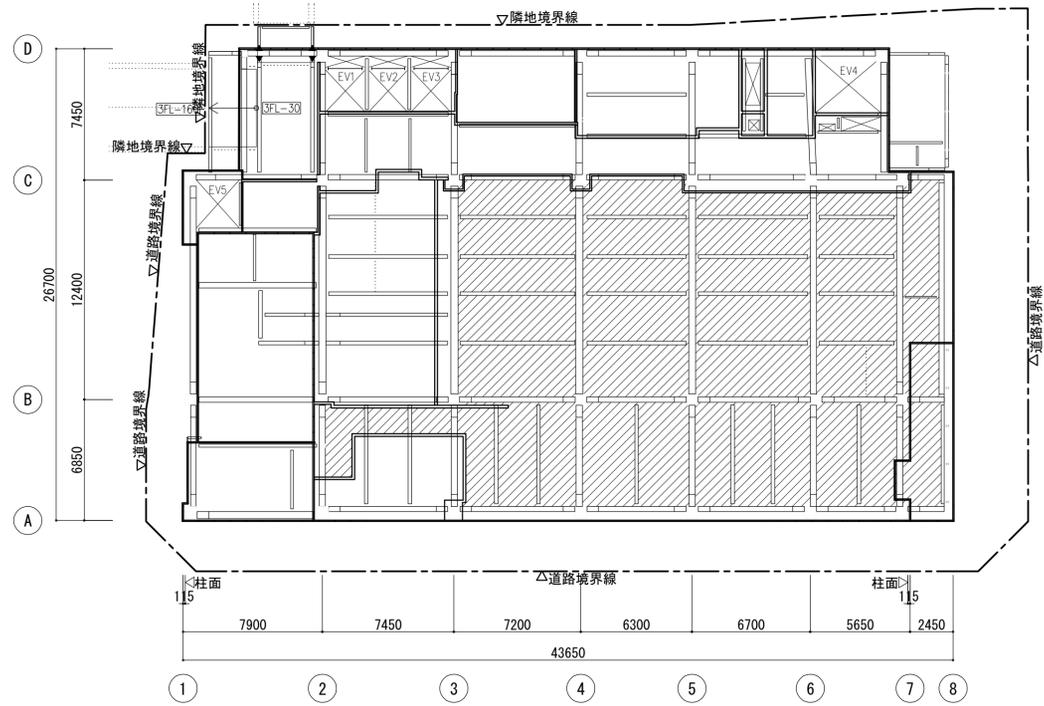
- 昇降路間口・奥行寸法は、昇降路全域 (ビット底部から昇降路頂部まで) にわたり確保のこと
- コンクリート強度は21N/mm² 以上のこと
- 電源電圧の変動は+5%~-10%以内、電圧不平衡率5%以内のこと
- 本エレベーター所定の性能維持のため下記条件が必要。
 - 昇降路内の温度は-5℃~40℃以内、湿度は月平均90% 日平均95%未満かつ急激な温度変化等により水結・結露しないこと
 - 金属を損耗または腐食したり接点の接触障害の原因となるような塵及び化学的有害ガスがないこと
- 屋上等直接外気と接する乗場における雨水よけ設備 (ひさし・風除室・水勾配・グレーチング・防潮板等)
- 昇降路壁には電気・水道管の配管・器具を埋め込まないこと
- 昇降路内には他の用途の配管・ダクト等が露出しないこと (建築基準法施行令第129条の2の5第1項第三号)
- 遮断器はインバータ回線対応のものを使用すること
- 輸送可能な適温配膳車や台車などの重量物は250kg以下とすること
- 換気設備を設置する場合は昇降路外部より保守可能な位置とし、設置環境により雨水或いは、防水対策を実施のこと

- エレベーターの保守・点検ならびに緊急対応のため、外部階段などから最上階および最下階エレベーターホールへアクセスできる経路を確保すること (個人宅など占有部を経由しないこと)
- エレベーターから発生する高周波漏洩電流と高周波ノイズにより、他の設備が影響を受ける恐れがあり 次の対策を実施のこと
 - エレベーター動力と通信機器・OA機器等弱電機器の電源線・通信線を1m以上分離する
 - エレベーターを含む動力の電源トランスと通信機器・OA機器等弱電機器の電源トランスを分離する (エレベーター照明用電源は弱電機器のトランスと分離不要)
 - エレベーターを含む機器アース線と通信機器・OA機器等弱電機器のアース線の分離配線と接地極の分離をする
- 乗場壁へウレタン吹付けを行う場合は、乗場機器取付け後に施工のこと。乗場機器取付け前にウレタン吹付けを行うと、乗場機器取付け時の溶接の火花に引火する恐れがあり

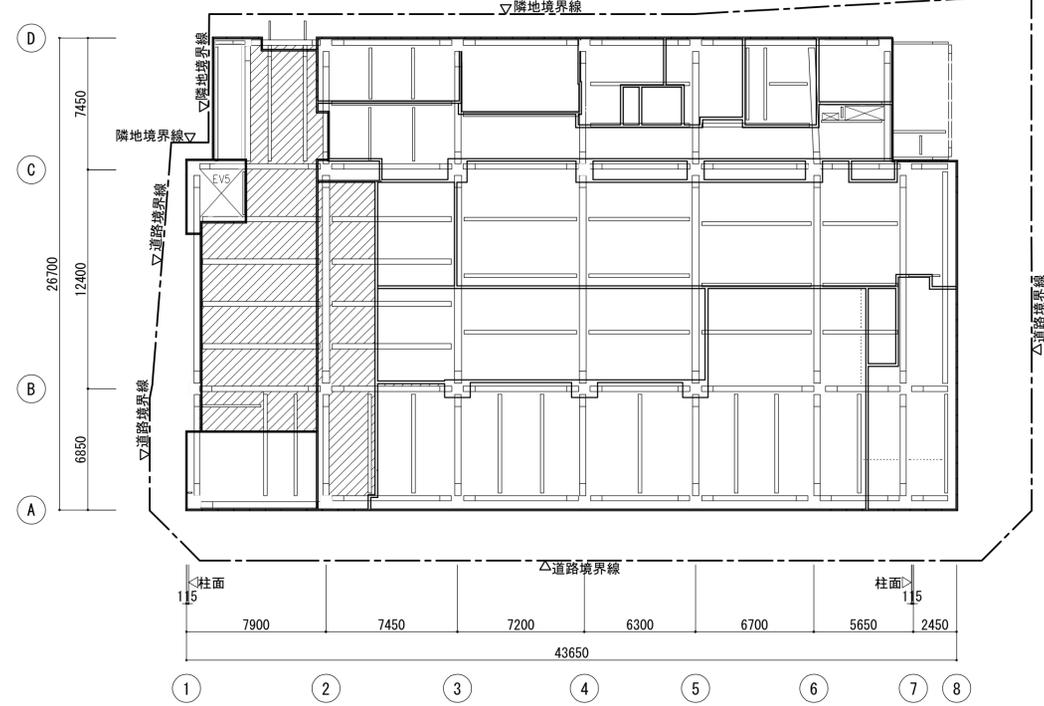
注意事項

- 昇降路間口・奥行寸法は、昇降路全域 (ビット底部から昇降路頂部まで) にわたり確保のこと
- コンクリート強度は21N/mm² 以上のこと
- 電源電圧の変動は+5%~-10%以内、電圧不平衡率5%以内のこと
- 本エレベーター所定の性能維持のため下記条件が必要。
 - 昇降路内の温度は-5℃~40℃以内、湿度は月平均90%・日平均95%未満かつ急激な温度変化等により水結・結露しないこと
 - 金属を損耗または腐食したり接点の接触障害の原因となるような塵及び化学的有害ガスがないこと
- 屋上等直接外気と接する乗場における雨水よけ設備 (ひさし・風除室・水勾配・グレーチング・防潮板等)
- 昇降路壁には電気・水道管の配管・器具を埋め込まないこと
- 昇降路内には他の用途の配管・ダクト等が露出しないこと (建築基準法施行令第129条の2の5第1項第三号)
- 遮断器はインバータ回線対応のものを使用すること
- 輸送可能な適温配膳車や台車などの重量物は500kg以下とすること
- 換気設備を設置する場合は昇降路外部より保守可能な位置とし、設置環境により雨水或いは、防水対策を実施のこと
- エレベーターの保守・点検ならびに緊急対応のため、外部階段などから最上階および最下階エレベーターホールへアクセスできる経路を確保すること (個人宅など占有部を経由しないこと)
- エレベーターから発生する高周波漏洩電流と高周波ノイズにより、他の設備が影響を受ける恐れがあり 次の対策を実施のこと
 - エレベーター動力と通信機器・OA機器等弱電機器の電源線・通信線を1m以上分離する
 - エレベーターを含む動力の電源トランスと通信機器・OA機器等弱電機器の電源トランスを分離する (エレベーター照明用電源は弱電機器のトランスと分離不要)
 - エレベーターを含む機器アース線と通信機器・OA機器等弱電機器のアース線の分離配線と接地極の分離をする
- 乗場壁へウレタン吹付けを行う場合は、乗場機器取付け後に施工のこと。乗場機器取付け前にウレタン吹付けを行うと、乗場機器取付け時の溶接の火花に引火する恐れがあり

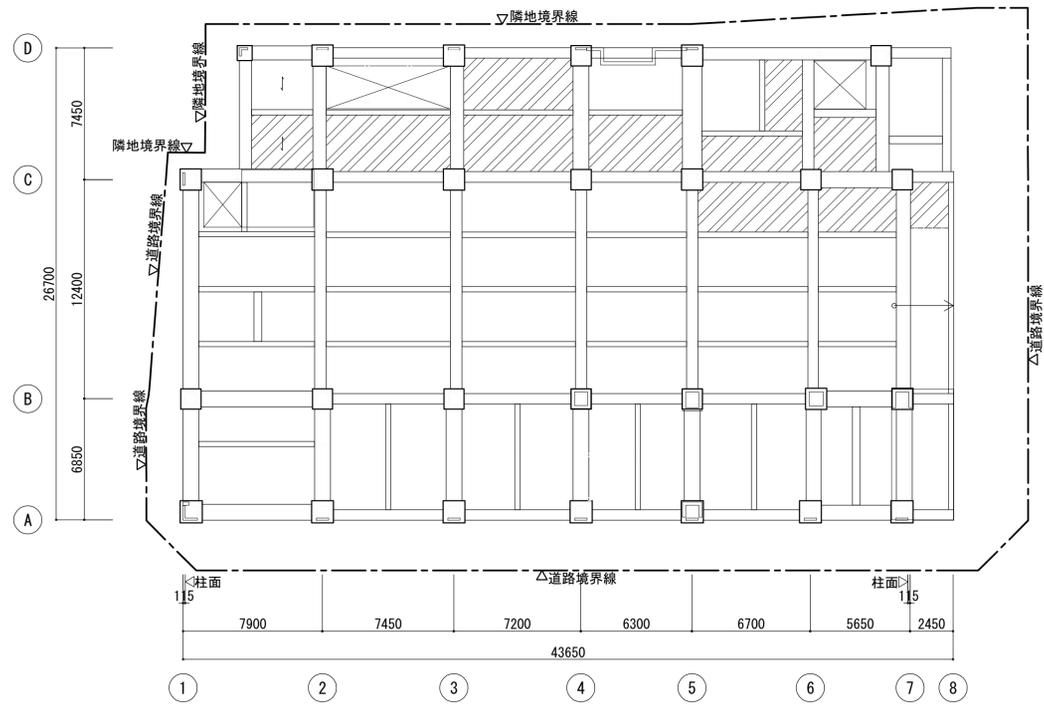
※特記なき限り鉄部はSOP塗装



2階平面図



3階平面図



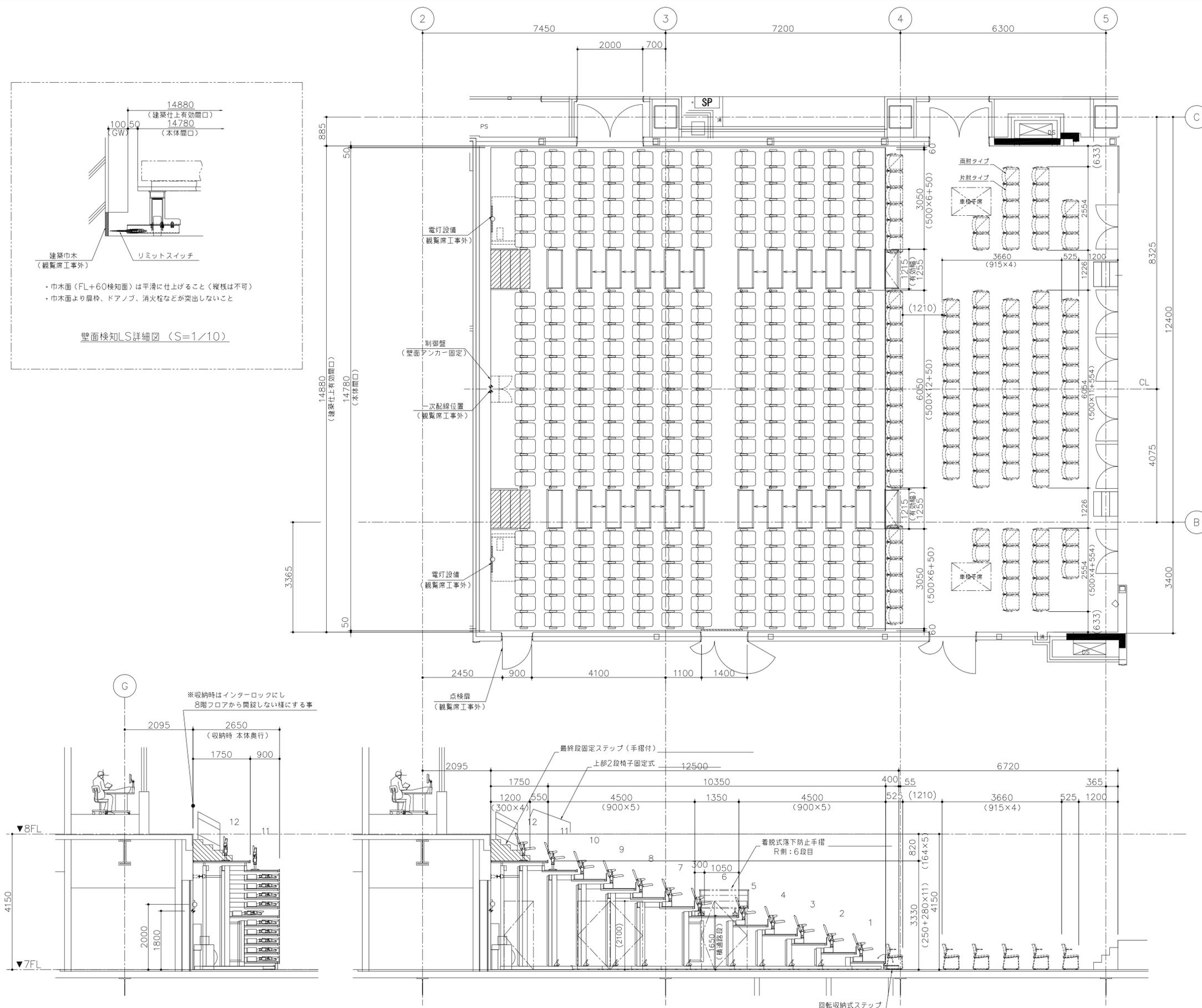
ピット図

■凡例

	ポリスチレンフォームB類3種t=30
	吹付ウレタンフォームt=30

※図面は全て見上げ図とする。

工事名称	(仮称) 区画整理記念・交流会館建設工事	令和元年度
図面名称	断熱範囲図	図面番号: 122
大阪市都市整備局 企画部	株式会社 大建設	図面番号: 122
公共建築課(企画設計グループ)		229



ロールバックチェアスタンド 電動式移動観覧席	開口	14780 mm	12 段	(構造段を含む)	椅子列数 12列
	各段高さ	280 mm (1段のみ250mm)			各段奥行き 900 mm
	1人開口	500 mm			席数 288 席
	本体タイプ	壁面直付式			
展開・椅子起立完了までの時間 3分 20秒					

構造体は建築基準法に準拠し、下記設計荷重に対して、許容応力度以下であること
 1) 長期荷重 = 本体重量 + 積載荷重 ※積載荷重 = 300 Kg/m²
 2) 地震力 = (本体重量 + 地震時積載荷重) × せん断力係数 ※地震時積載荷重 = 160 Kq/m² ※せん断力係数 = 0.4

本体主要部材		
支柱	角鋼管	合成樹脂焼付塗装仕上 (ブラックグレー)
ローラカーバー	鋼板曲げ加工品	合成樹脂焼付塗装仕上 (ブラックグレー)
アーム	鋼板曲げ加工品	合成樹脂焼付塗装仕上 (ブラックグレー)
フレーシング	等辺山形鋼	合成樹脂焼付塗装仕上 (ブラックグレー)
貫材	角鋼管	合成樹脂焼付塗装仕上 (ブラックグレー)
床		
床踏材	デッキボード	
フロントノーズ	アルミ押出型材	電解着色仕上 (ブラック)
ノンスリップタイヤ	塩ビ押出成型品	(グレー)
床面仕上材	タイルカーペット	(SKBまたはSKL)
フロントパネル	鋼板曲げ加工品	合成樹脂焼付塗装仕上 (ブラックグレー)
ベアスカパー	鋼板曲げ加工品	合成樹脂焼付塗装仕上 (ブラックグレー)
走行ローラー	ウレタンゴム車輪	
	ローラカーバー1本あたり5輪以上取り付けること	

本体付属部品		
着脱式落下防止用手摺 (6段目尺側)		
前扉板	t15 高耐摩耗化粧合板 (木目調)	(アイカBB)
(1段目 スイング式、6段目 通路部着脱式)		(画面貼り、木目方向: 横、木口は同色塗清し塗装仕上)
回転収納式ステップ	1段目前	2 箇所
固定ステップ	1段目、6段目、11段目	6 箇所
スライドステップ	2~5段目、7~10段目	16 箇所
最終段固定ステップ (手摺付)		2 箇所

その他		
通路灯	非常電源内蔵型	24 個
	社団法人日本照明器具 認定品	
	LEDランプを使用すること	

制御盤		(ライトベージュ)
本体展開・収納用モーター	三相200V 0.4 KW 2台 (2台 同時動作)	インバータ駆動
椅子起立用モーター	三相200V 0.2 KW 10台 (5台 同時動作)	
駆動方法	DUノンフリクション送り出し方式 (本体展開・収納)	
操作方法	液晶ナビ付リモートスイッチ	操作方法、状態番号および説明を画面表示
安全装置	始動、運転時警報メロディ、非常時警告アラーム	を有すること
	音声ナビゲーションシステム	を有すること
	トラブル箇所特定装置 ※10項目以上のトラブルの表示	を有すること
	本体展開・収納モーター過負荷運転停止装置	を有すること
	椅子起立用モーター動作確認用インターバル装置	を有すること
	漏電検知および遮断装置	を有すること
	走行時 障害物検知停止装置 (フロントパネル)	を有すること
	各種機器・装置の安全確認装置	を有すること
	走行時 壁面4段階検知装置 (3段階までは、駆動制御、4段階目で停止)	

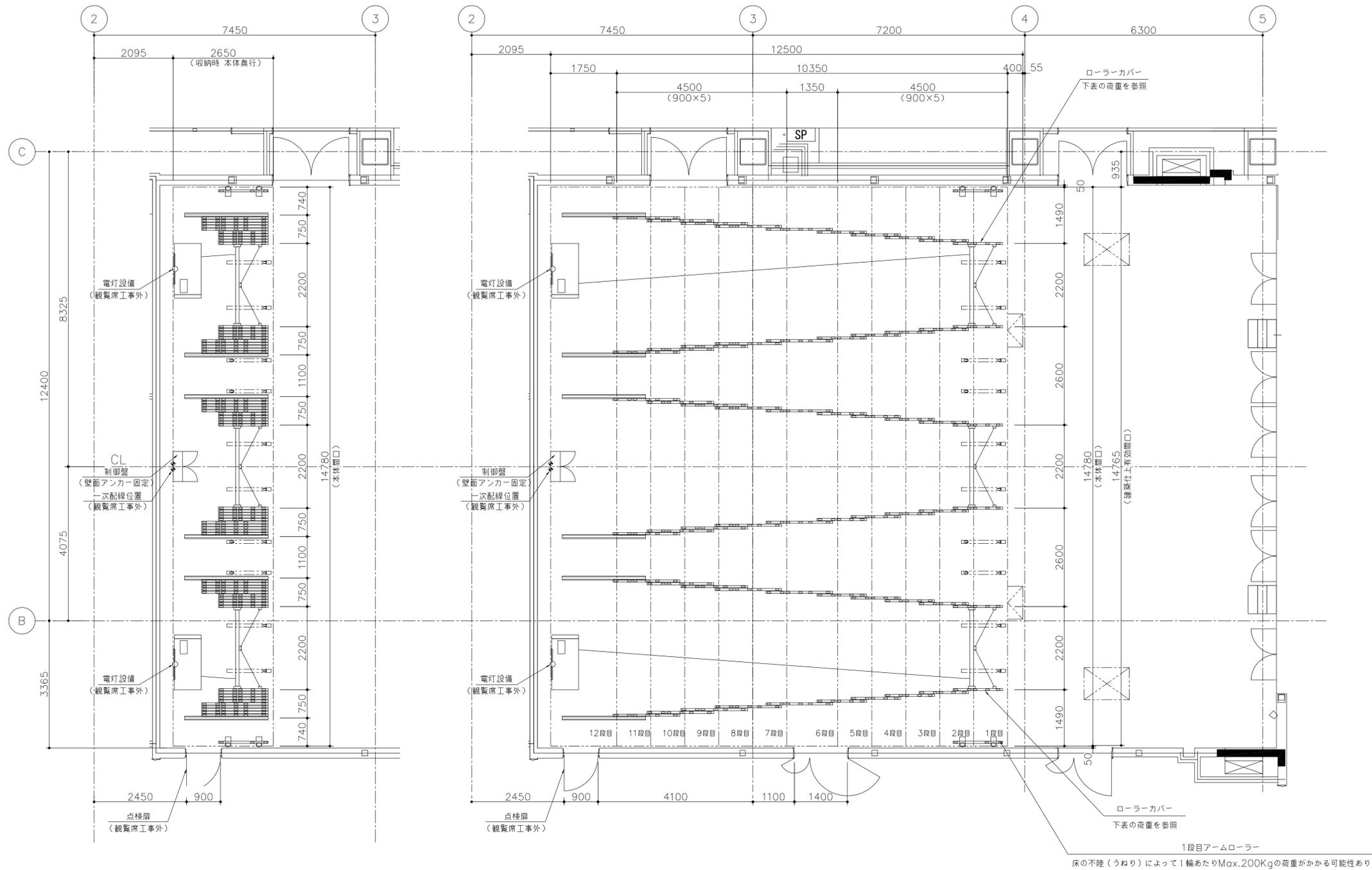
観覧席工事外		
建築工事		
点検扉	W: 900 H: 1800 程度	
設置階までの荷揚げ用重機		
電気工事	※ 一次側配線工事は制御盤端子台までの結線も含む	
一次側電容量	三相200V 4 KVA (アース込み)	
	単相100V 1 KVA (通路灯用専用回路 アース込み)	
収納庫内電灯設備	6 箇所	
建築床仕上材	フローリング (収納部: コンクリート下地)	

移動観覧席の走行を安定させるための条件
 建築床について (建築工事)
 ● 移動観覧席最大荷重時、走行面及び収納庫面に段差が生じる場合は2mm以下とする
 床仕上り面は良好な手摺と 3/1000かつ7/3000以下とし、観覧席走行範囲において床仕上り面の最大高低差は、10mm以内とする
 ● 仕上材及び下地にフッショ層無きこと
 ※ 走行ローラーに掛かる荷重により、床材に凹みが生じ走行が安定しなくなる為
 ※ コンクリート直貼りの場合、下地にはセルフレベリング材を使用の事
 ● 床見切りは無きこと
 ※ 見切り部に走行ローラーがはまり、走行が安定しなくなる為
 床材の種類によっては、観覧席の走行による局所的な集中荷重によって何らかの凹み (走行跡) が残る場合があります
 また、床の不陸 (うねり) によって、走行ローラーが床面に設置しないところが発生し、床材の凹みが大きくなる場合もあります
 ● 走行ローラーによる床材表面への影響確認試験が可能
 床面、壁面の下地について
 ・ 下地をコンクリートとし、アンカー固定が可能であること
 設置階数 7 階

数量表		
電動式移動観覧席		288 席
スタッキングチェア (面付タイプ、片付タイプ)		111 席
		※別送工事
車椅子席		2 席
親子席		4 席
合計		405 席

工事名称	(仮称) 区画整理記念・交流会館建設工事	令和元年度
図面名称	電動式移動観覧席詳細図 (1) 通し番号	124 図面番号
大阪市都市整備局 企画部		株式会社 大建設
公共建築課 (企画設計グループ)		124

縮尺 1:300
 図面番号: A-1
 124
 124
 229



荷重分布表

段数	1段目	2段目	3段目	4段目	5段目	6段目	7段目	8段目	9段目	10段目	11・12段目
各段の重量	1372	1198	1249	1275	1301	1953	1654	1681	1707	1733	3099
ローラーカバー1本当たりの重量	229	200	209	213	217	326	276	281	285	289	517
移動時のローラーカバー1群当たりの最大荷重	229	429	637	849	1066	1392	1667	1948	2232	2521	3037
積載時(使用時)のローラーカバー1本当たりの最大荷重	489	460	469	473	477	586	536	541	545	549	1037

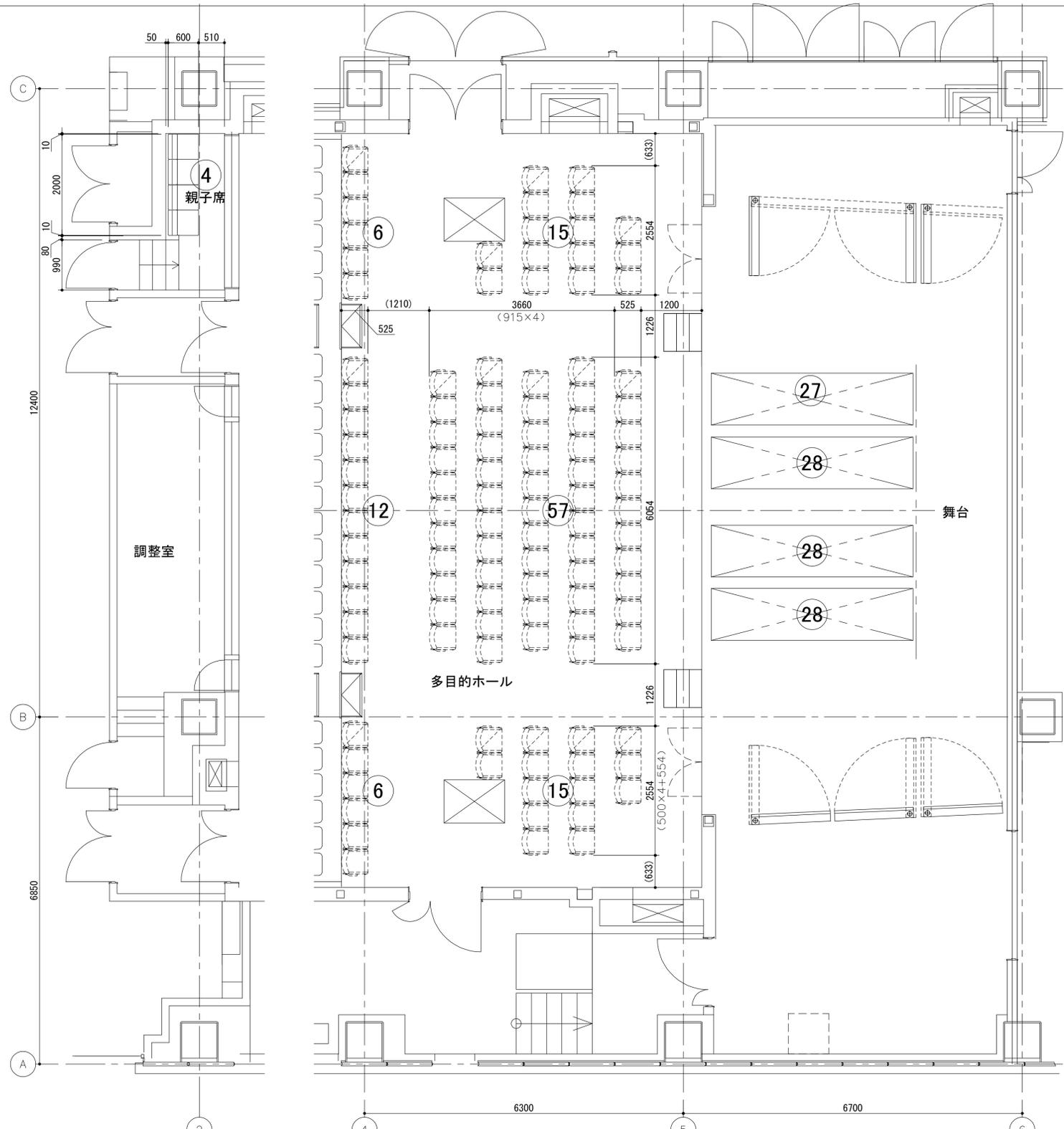
移動観覧席は最大積載荷重300kg/m²に耐え得る製品であり、
 使用勝手によっては建築床面にかかる荷重が上記「積載時(使用時)」よりも増加します。
 目安として、「最大積載時」は「積載時(使用時)」の約3倍の荷重となることがあります。

本体総重量 18222Kg
 積載時総重量 36942Kg (本体総重量+65Kg×288人)

ローラーカバー1本当たりの重量 : [各段の重量]を各段のローラーカバーの本数 6 で除した値
 移動時のローラーカバー1群当たりの最大荷重 : [ローラーカバー1本当たりの重量]を累積した値
 (移動時とは展開状態から収納状態に向かう場合を示し、ローラーカバーが1段1段重なって群を形成します)
 積載時(使用時)のローラーカバー1本当たりの最大荷重 : [各段の重量+積載重量]を各段のローラーカバーの本数 6 で除した値(積載重量は65Kg×各段の席数)

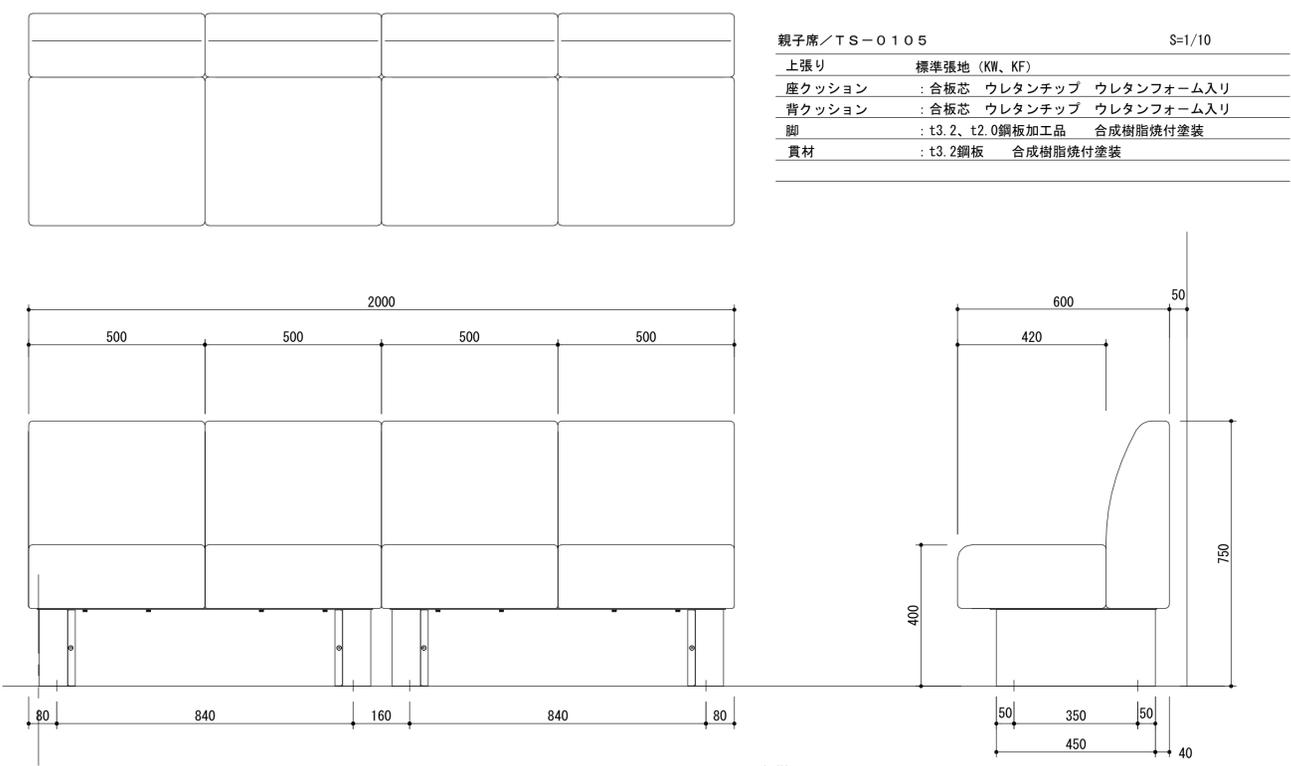
- 移動観覧席の走行を安定させるための条件
- 建築床について(建築工事)
 - 移動観覧席最大荷重時、走行面及び収納庫面に段差が生じる場合は2mm以下とする
 - 床仕上り面は良好な平坦さ 3/1000かつ7/3000以下とし、観覧席走行範囲において床仕上り面の最大高低差は、10mm以内とする
 - 仕上材及び下地にクッション層無きこと
 - ※走行ローラーに掛かる荷重により、床材に凹みが生じ走行が安定しなくなる為
 - ※コンクリート直貼りの場合、下地にはセルフレベルング材を使用の事
 - 床見切りは無きこと
 - ※見切り部に走行ローラーがはまり、走行が安定しなくなる為
 - 床材の種類によっては、観覧席の走行による局所的な集中荷重によって何らかの凹み(走行跡)が残る場合があります
 - また、床の不陸(うねり)によって、走行ローラーが床面に設置しないところが発生し、床材の凹みが大きくなる場合もあります
 - 走行ローラーによる床材表面への影響確認試験が可能

縮尺 1:60	令和元年度
工事名称 (仮称) 区画整理記念・交流会館建設工事	図面番号 A-1
図面名称 電動式移動観覧席詳細図(2) 通し番号 125	図面番号 125
大阪市都市整備局 企画部	大建設
公共建築課(企画設計グループ)	229

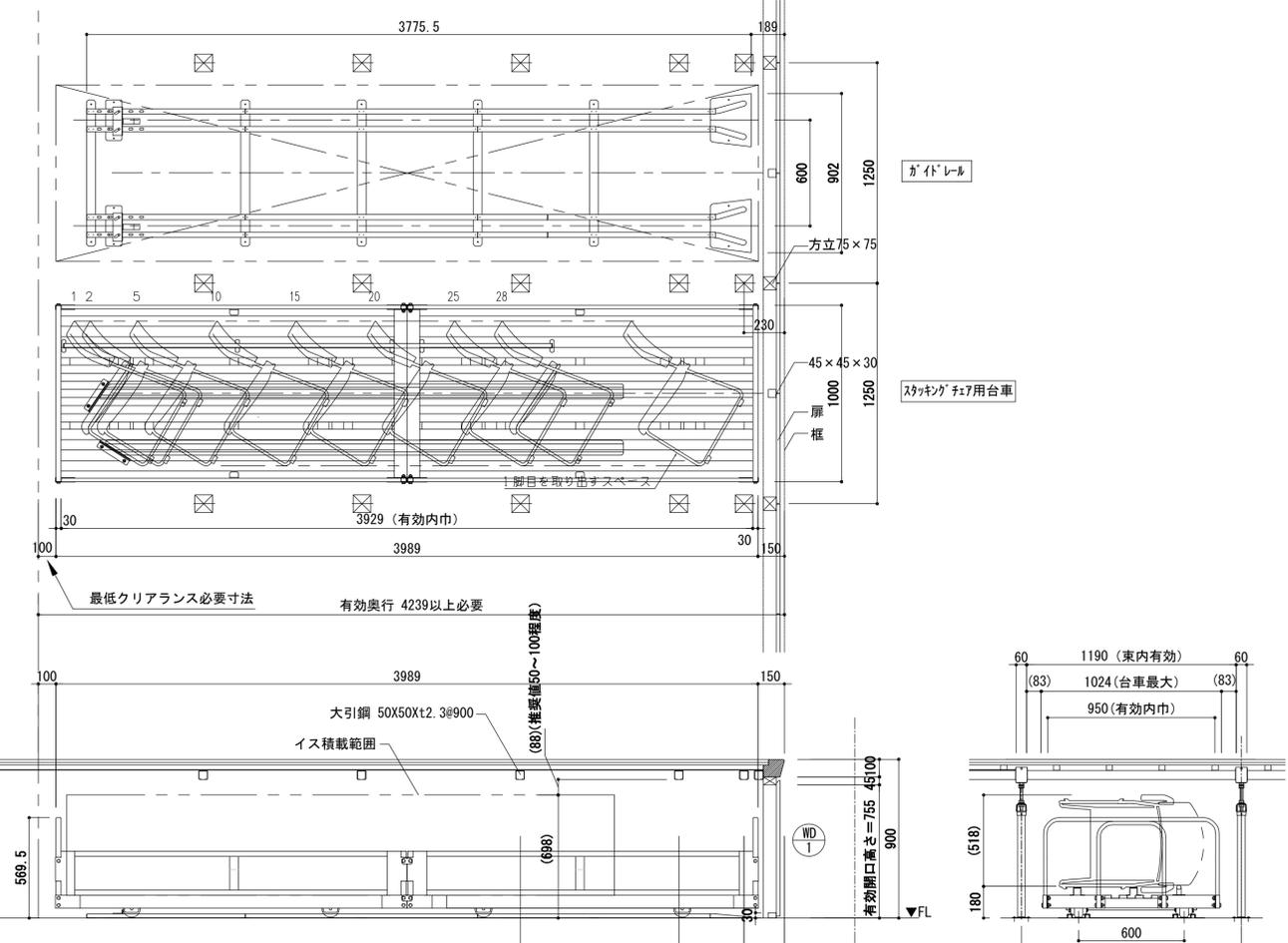


< 配置図 S=1/50 >

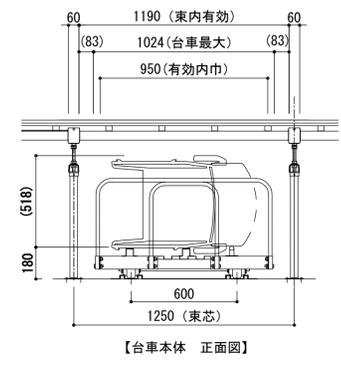
	スタッキングチェア (片肘タイプ) /FC-311(別途工事)	95脚
	スタッキングチェア (両肘タイプ) /FC-312(別途工事)	16脚
計		111脚
	舞台下収納台車 (28脚積載/台)	4台



親子席 / TS-0105	S=1/10
上張り	標準張地 (KN、KF)
座クッション	: 合板芯 ウレタンチップ ウレタンフォーム入り
背クッション	: 合板芯 ウレタンチップ ウレタンフォーム入り
脚	: t3.2、t2.0鋼板加工品 合成樹脂焼付塗装
貫材	: t3.2鋼板 合成樹脂焼付塗装



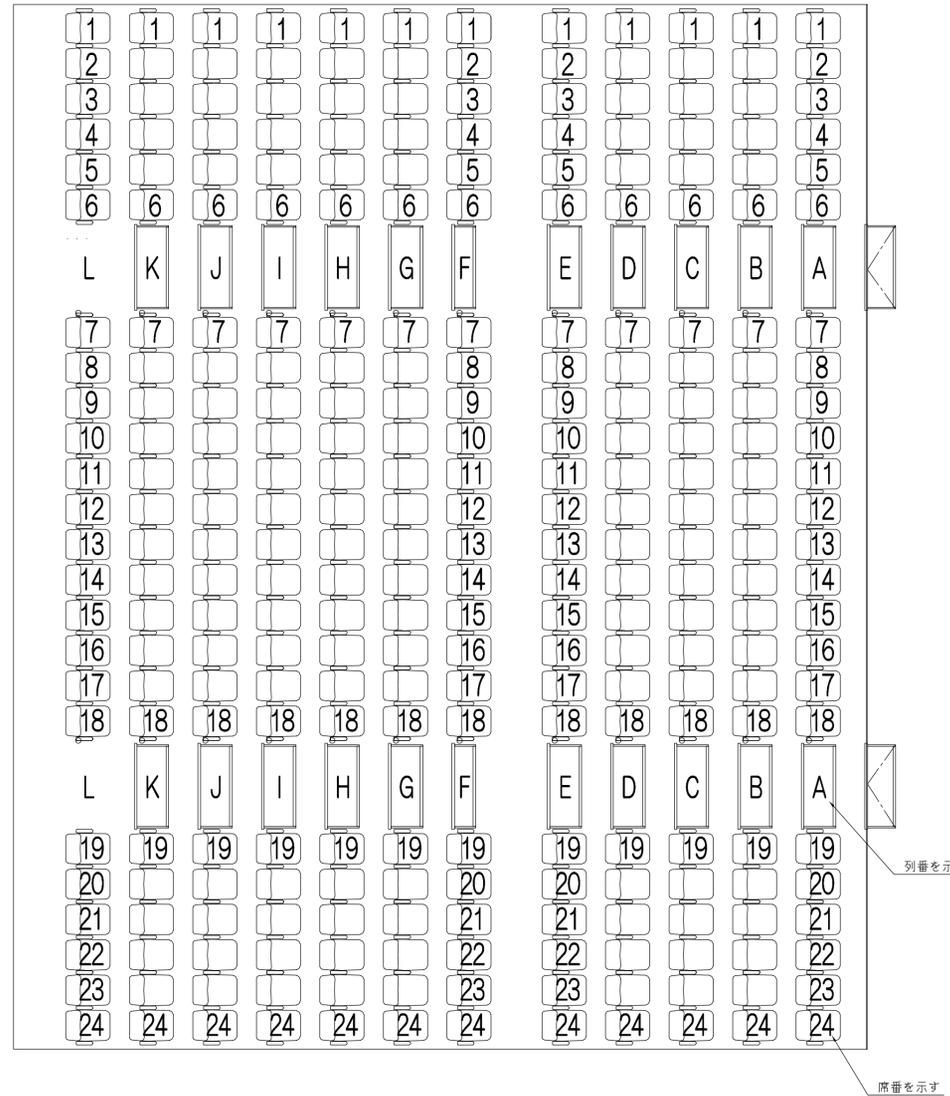
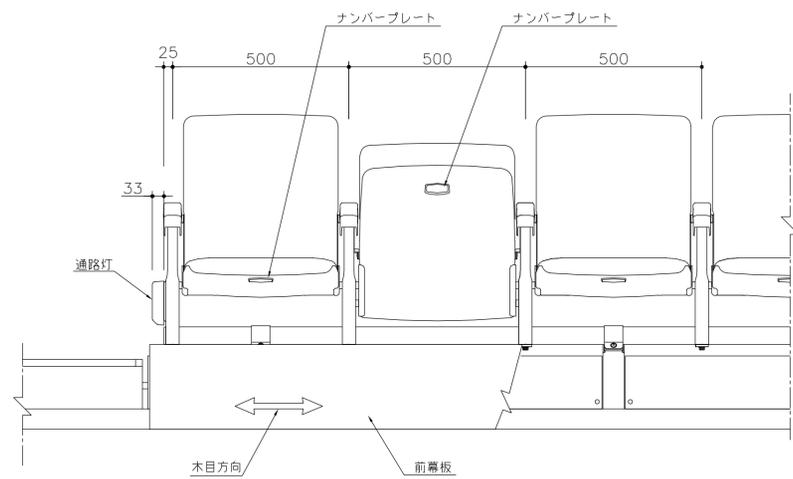
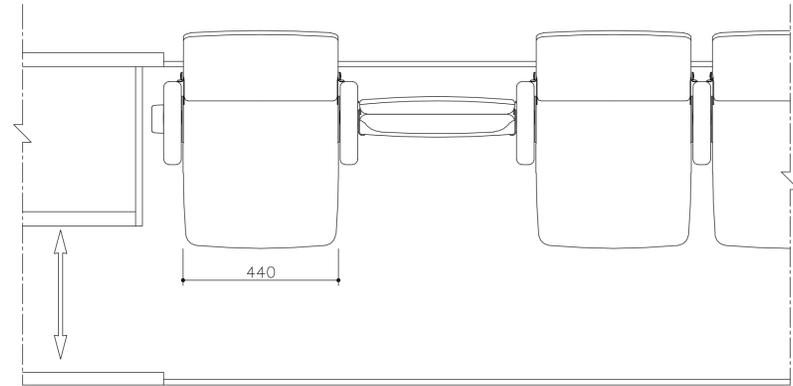
< 舞台下収納 S=1/20 >



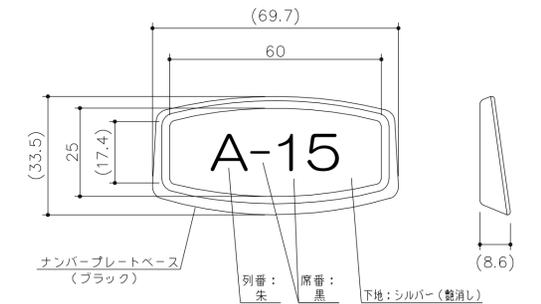
【台車本体 正面図】

工事名称	(仮称) 区画整理記念・交流会館建設工事	令和元年度
図面名称	電動式移動観覧席詳細図 (3) 通し番号	126 図面番号
大阪市都市整備局 企画部	株式会社 大建設	126
公共建築課(企画設計グループ)		229

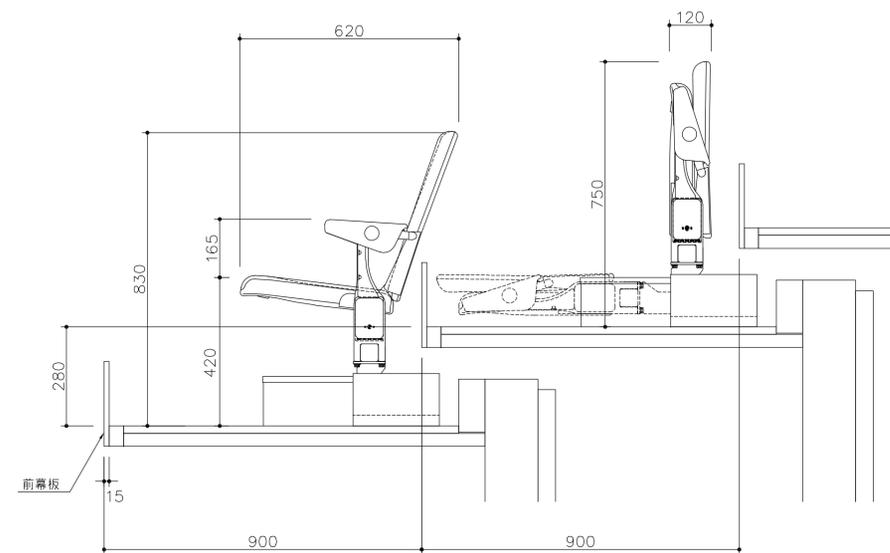
電動式移動観覧席 客席用連結椅子 (背・座・肘連動スプリングレス自動折り畳み式)		
椅子主要部品		
上張地	平織布地	(KW,KF)
背	成形合板 ウレタンフォーム入り張り込み	
座	成形合板 ウレタンフォーム入り張り込み	
肘	合成樹脂成形品	(ブラック)
肘支柱	アルミ合金ダイキャスト	合成樹脂焼付塗装仕上 (標準色)
連結材	角鋼管	合成樹脂焼付塗装仕上 (標準色)
脚支柱	鋼板加工品	合成樹脂焼付塗装仕上 (標準色)



ナンバープレート	アルミニウム板
厚さ	t0.5
字体	UD 新丸ゴ(丸ゴシック体)
ナンバープレートベース	ABS樹脂成型品 (ブラック)
材質	ABS樹脂成型品 (ブラック)



ナンバープレート詳細図 (S=10/1)



工事名称	(仮称) 区画整理記念・交流会館建設工事	令和元年度
図面名称	電動式移動観覧席詳細図 (4)	図面番号: A-1
大阪市都市整備局 企画部	127	127
公共建築課(企画設計グループ)	127	229



縮尺 1:60
127
229